



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑧ エイズ(AIDS)

京都府南丹保健所長 時田 和彦

まずは語句の説明から。エイズ(AIDS)とは後天性免疫不全症候群(Acquired Immunodeficiency Syndrome)の略称で、病気の名前です。一方 HIV とは、ヒト免疫不全ウイルス(Human Immunodeficiency Virus)の略で、エイズの原因となるウイルスの名前です。

ヒトが HIV というウイルスに感染すると、最初の約1ヶ月間は潜伏期で症状はなく、その後50~90%の症例で発熱や全身倦怠感など、感冒様の急性期症状が出ます。やがて症状は消失し、数年間は何の症状も出ません。しかし数年から十数年すると、「CD4 陽性リンパ球」という白血球の一種の数が次第に減り、身体の免疫力が低下し、各種の感染症や癌(エイズ指標疾患と呼ばれ、23疾患が指定されている)が発症します。このような病態をエイズと言います。

先進国においては、エイズを発症する前に HIV 感染が判明し、しっかり治療を続けられれば、エイズで死ぬことはありません。エイズを発症してから病院を受診した場合は、その時の合併疾患や CD4 陽性細胞数により、生命予後は異なります。治療で大切なのは、薬を忘れず飲み続けることです。数回飲み忘れただけで、薬剤耐性ウイルスが出来てしまい、その後の治療が困難になるからです。

HIV に感染しないためには、性交渉の際にコンドームを使用することです。特に日本では、男性の同性愛者で注意が必要です。また HIV 感染が判明しても、服薬治療によりウイルスを検出限界以下に抑えていれば、HIV をパートナーに感染させることはないとしています。現在の HIV 治療薬には、ウイルスを完全に除去できる薬はなく、薬を飲み続けなくてはなりません。将来ウイルスを除去できる薬が作られ、服薬を終了できるまで、頑張って治療を続けてください。

保健所では、匿名で無料の HIV 検査が可能です。ホームページを見て電話し、予約日に受診してください。